

世界で使用されている生成 AI を活用した商標業務関連 ツール調査レポート

Manus

1. はじめに

近年、生成 AI（Generative AI）をはじめとする人工知能技術の発展により、知的財産分野、特に商標業務において大きな変革が起きています。従来のキーワード検索や目視による類似性判断に依存していた商標調査・監視業務は、AI の導入により飛躍的な効率化と精度の向上が図られています。本レポートでは、2025 年現在、世界で使用されている生成 AI を活用した主要な商標業務関連ツールについて、その機能、特徴、および市場動向を包括的に調査・整理します。

2. 商標業務における AI 活用の主要領域

商標業務における AI の活用は、主に以下の 4 つの領域に分類されます。

- 商標調査・クリアランス（Search & Clearance）**：出願前の類似商標検索。文字だけでなく、図形（ロゴ）の類似性や、音声・立体商標などの非伝統的商標の検索にも AI の画像認識や音声解析技術が活用されています。
- 商標監視・ウォッチング（Watch & Monitoring）**：登録商標の侵害や模倣品の監視。世界中のデータベースやオンラインマーケットプレイス、SNS を常時監視し、類似商標の出願や不正使用を検知します。
- 出願・審査対応支援（Prosecution & Office Action）**：指定商品・役務の自動分類（類似群コードの付与など）や、特許庁からの拒絶理由通知（Office Action）に対する応答の自動生成。
- ブランドネーミング・生成（Brand Naming & Generation）**：新たなブランド名やロゴの生成。生成 AI を用いて、指定した条件やイメージに合致し、かつ登録可能性の高いネーミングを提案します。

3. 世界の主要な AI 商標ツール

3.1. Clarivate (CompuMark / RiskMark)

Clarivate 社は、商標調査の世界的リーダーである CompuMark ブランドを通じて、高度な AI ツールを提供しています。2025 年には、生成 AI と予測 AI を組み合わせた「RiskMark」を発表しました [1]。

- **RiskMark:** 1 億 7,250 万件以上の商標レコードと 500 万件の判例データ (Darts-ip) を統合し、商標の類似性リスクを瞬時に評価するツールです。視覚的、音声的、概念的な類似性をスコア化し、異議申立などの法的対応のための論拠 (Argument) の草案を生成 AI が作成する機能も備えています [1]。
- **Trademark Watch Analyzer:** AI を活用して監視結果をリスク順にランク付けし、優先順位付けを行うことで、ブランド所有者の監視業務の負担を軽減します [2]。

3.2. Corsearch (TrademarkNow / Zeal 2.0)

Corsearch 社は、AI を活用した商標プラットフォーム「TrademarkNow」を展開しており、2025 年にはさらに AI 機能を強化しました [3]。

- **TrademarkNow:** ニューラルネットワークを用いた音声類似性検索 (ExaMatch Smart Phonetics) や、コンピュータビジョンを用いたロゴ監視 (LogoWatch) を提供しています。また、自然言語処理 (NLP) を用いて、日常言語で検索クエリを作成できる「AI Query Assist」機能も搭載しています [3]。
- **Zeal 2.0:** 2025 年にリリースされた AI ネイティブのブランド保護プラットフォームです。画像が回転、トリミング、フィルター処理されていても模倣品を検出できる高度な画像認識機能を備えています [4]。

3.3. Questel (Markify / Qthena)

Questel 社は、AI 駆動の商標クリアランス・監視プラットフォーム「Markify」と、IP 業務全般を支援する AI アシスタント「Qthena」を提供しています。

- **Markify:** 独自の類似性アルゴリズムを用いた包括的な文字・画像商標検索を提供します。最大 190 カ国のデータベースを対象とした監視（Watch）機能も備えています [5]。
- **Qthena:** 生成 AI を活用したデジタルアシスタントで、商標検索結果のレビュー、指定商品・役務の草案作成、拒絶理由通知への応答管理などを自然言語でのチャット形式で支援します [6]。

3.4. Huski.ai

Huski.ai は、商標業務に特化した AI ネイティブプラットフォームです。

- **Smart Docketing:** USPTO（米国特許商標庁）の文書を自動的に取得・整理し、期限管理を行うドCKETTING機能を提供します [7]。
- **Gap Analysis:** AI を用いて、ブランドの商標クラスの保護の隙間（ギャップ）を特定し、追加出願を提案する機能を備えています [8]。

3.5. Stencil

Stencil は、商標出願（Prosecution）業務に特化した AI プラットフォームです。

- **機能:** 企業のウェブサイトや事業説明から、USPTO の ID マニュアルに準拠した指定商品・役務の記述を数分で自動生成します。また、使用証拠（Specimen）となる URL や画像を自動的に収集・紐付けする機能を持ち、出願準備の時間を大幅に削減します [9]。

3.6. 日本国内の動向 (TM-RoBo / 特許庁)

日本国内でも、日本語特有の商標実務に対応した AI ツールの導入が進んでいます。

- **TM-RoBo (IP-RoBo 社):** 称呼検索や文字結合商標の検索に対応した AI 商標調査ツールです。AI が類否統計指標を算出し、類似の可能性が高い順に表示します。また、作りたいイメージから商標を自動生成する「AI 商標生成機能」も提供しています [10]。
- **日本国特許庁 (JPO):** 特許庁自身も審査の効率化のために AI を導入しています。FRONTEO 社の AI エンジン「KIBIT」などを活用し、指定商品・役務に

対する「類似群コード」の自動付与支援システムの検証・導入を進めています [11]。

3.7. 各国特許庁・国際機関の AI ツール

民間企業だけでなく、特許庁や国際機関も AI ツールの提供を開始しています。

- **WIPO (世界知的所有権機関):** Global Brand Database において、AI を活用した画像類似性検索機能を提供しています。また、マドリッド制度での出願時に指定商品・役務の分類を支援する「Vienna Classification Assistant」などの AI ツールも開発しています [12]。
- **EUIPO (欧州連合知的財産庁):** 2025 年 11 月、出願前に商標の問題点を洗い出す AI 搭載の「Early TM Screening」ツールを公開しました。先行商標との衝突だけでなく、識別性の欠如や記述的商標であるかどうかのチェックも AI が行います [13]。
- **USPTO (米国特許商標庁):** 2026 年 3 月、商標出願の事前処理（国際分類や図形検索コードの付与）を瞬時に行う AI エージェント「Class ACT」を発表し、審査の迅速化を図っています [14]。

4. AI 商標ツールの市場動向と課題

4.1. トレンドと展望

2025 年から 2026 年にかけて、商標業務における AI の活用は「検索の自動化」から「生成 AI による戦略的支援」へとシフトしています。RiskMark や Stencil のように、単に類似商標を見つけるだけでなく、法的根拠に基づいた応答の作成や、出願書類の自動生成を行うツールが主流になりつつあります。また、非伝統的商標（音声、立体、動きなど）の審査・監視においても AI の画像・音声認識技術が不可欠となっています [15]。

4.2. 課題とリスク（AI ハルシネーション）

一方で、生成 AI の利用には法的なリスクも伴います。最も懸念されているのが「ハルシネーション（もっともらしい嘘）」です。AI が実在しない判例や架空の商標デ

ータを生成してしまう事例が報告されており、法務専門家による最終的な確認（Human-in-the-loop）が不可欠です [16]。USPTO などの各機関も、AI ツールの使用に関するガイドラインを策定し、専門家としての責任と義務を明確にしています [17]。

5. 結論

生成 AI を活用した商標業務関連ツールは、調査、監視、出願、ネーミングの全プロセスにおいて、業務の効率化と精度の向上をもたらしています。Clarivate、Corsearch、Questel などのグローバル企業が高度な AI プラットフォームを提供する一方、各国特許庁も独自の AI 審査ツールを導入し、商標制度全体のデジタル化が加速しています。今後は、AI の利便性を最大限に活用しつつ、ハルシネーションなどのリスクを適切に管理するハイブリッドな運用体制が、知財専門家に求められるでしょう。

References

- [1] Clarivate. "RiskMark". <https://clarivate.com/intellectual-property/litigation-intelligence/riskmark/> [2] Clarivate. "Trademark Watch Analyzer". <https://clarivate.com/intellectual-property/brand-ip-solutions/trademark-watch-analyzer/> [3] Corsearch. "TrademarkNow 2025: The Year of AI Innovation". <https://corsearch.com/content-library/blog/trademarknow-2025-the-year-of-ai-innovation/> [4] Corsearch. "2025: The Year of Zeal 2.0 - How We Redefined Brand Protection for an AI-Native Era". <https://corsearch.com/blogs/2025-the-year-of-zeal-2-0> [5] Questel. "Markify Comprehensive Search". <https://www.questel.com/trademark/clearance-and-watch-platform/markify-comprehensive-search/> [6] Questel. "AI assistant for patent and trademark productivity | Qthena". <https://www.questel.com/qthena/> [7] Huski.ai. "Trademark Docketing". <https://huski.ai/solutions/docketing> [8] Huski.ai. "Meet Huski TM Copilot's Trademark Gap Analysis". <https://huski.ai/blog/gap-analysis-product-feature/> [9] Stencil. "Trademark prosecution, accelerated". <https://www.getstencil.ai/> [10] IP-RoBo. "【公式】TM-RoBo | 商標調査・生成を誰でも、速く、正確に". <https://ip-robo.co.jp/tm-robo/> [11] FRONTEO. "日本特許庁が商標審査のための AI 事業を FRONTEO に委託". <https://www.obwb.com/04D540/assets/files/News/Revised-Article-by-Mutsumi-1.pdf> [12] WIPO. "AI Tools and Services". <https://www.wipo.int/en/web/ai-tools-services> [13] EUIPO. "EUIPO launches new AI-powered tool to screen trade marks before filing". <https://www.euipo.europa.eu/en/news/euipo-launches-new-ai-powered-tool-to-screen-trade-marks-before-filing> [14] USPTO. "Trademark classification goes agentic with USPTO's

announcement of “Class ACT” assistant". <https://www.uspto.gov/about-us/news-updates/trademark-classification-goes-agentic-usptos-announcement-class-act-assistant> [15]

PatentPC. "The Future of AI in Trademark Law: Trends to Watch in 2026". <https://patentpc.com/blog/the-future-of-ai-in-trademark-law-trends-to-watch-in-2025> [16]

Baker Donelson. "The Perils of Legal Hallucinations and the Need for AI Training for Your In-House Legal Team". <https://www.bakerdonelson.com/the-perils-of-legal-hallucinations-and-the-need-for-ai-training-for-your-in-house-legal-team> [17]

Skadden. "USPTO Provides Guidance on Using AI-Based Tools in Practice Before the USPTO". <https://www.skadden.com/insights/publications/2024/05/uspto-provides-guidance-on-using-ai-based-tools>